

# 平成27年度 第1回 佐倉市立美術館運営協議会

## 議事録

日 時：平成27年8月22日（土） 14：30～16：30

場 所：佐倉市立美術館 4階会議室

出席者：以下のとおり

（委員 8名）

齊藤委員、高橋委員、田中委員、豊田委員、樋田委員、広本委員、  
村田委員、安本委員

（美術館職員 6名）

宍戸館長、永山主査（学芸員）、黒川学芸員、小川主査補、  
西川主事（学芸員）、山本主事（学芸員）

### 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 会長・副会長の選出
4. 報告事項
  - （1）平成27年度人事異動について（公開）
  - （2）平成26年度事業報告について（公開）
  - （3）平成27年度事業計画等について（公開）
5. 協議事項
  - ・作品の受け入れについて（非公開）
6. その他
7. 閉 会
  - ・展覧会鑑賞

## 【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

## 【3. 会長・副会長の選出】

・会長に樋田委員、副会長に齊藤委員を選出した。

## 【4. 報告事項】

(1) 平成27年度人事異動について

<館長より説明>

(2) 平成26年度事業報告について

<事務局より説明>

(委員) 「安井曾太郎の世界」展の「美術館と佐倉市文化財施設の相互割引サービス」について、この半券の割引有効期間というのは当日かぎりなのですか？

(美術館) 文化課との協議により、当日限りとしました。

(委員) 他の市町村だと、有効期間一週間のところもあります、といたしますのも1日だけでその地域にある全ての施設を見て回るのが困難な場合もあるからです。佐倉市には堀田邸、武家屋敷、佐倉市立美術館などがあって、歴史民俗博物館もあります。それらを1日でまわるのは大変かなという気がします。割引有効期間について文化財課と話し合い、ご検討なさっては如何でしょうか？

### ※検討事項1

(美術館) 文化課との話し合いということもございますので、今後の検討事項とさせていただきます。

(委員) (2) 「学校連携 その他」について、美術館バスの利用が5校、鑑賞教室、施設見学も6校にとどまっていますが、佐倉市内にはもっと多くの学校があろうかと思えます。これから先々、子ども達が美術に対して興味を持つことが、美術館の発展について、すごく重要なことだと思うのです。ですから、出来ればもっと多くの学校の生徒にこれを催していただけたらどうかと。

(美術館) 佐倉市には小中合わせて34校あるのですが、平成19年に学校連携事業を始めた時には、いずれ全校に参加していただくことが遠い目標としてありました。今のところ、まずは全校に色々なプログラムがあり、受け入れが出来ることはお知らせし、希望があった学校に対しては、ほとんど対応しており

ます。ただし、美術館バスについては、バスの予算を5台分しかとっていなかったため、キャンセル待ちのまま、お断りしてしまった事例がございます。

現在、美術館の職員だけでは、もしも全校が手を挙げてくださっても、受け入れ体制が整っていないので、今後、利用校を増やしていくため、アートプロジェクト事業として鑑賞コミュニケーターの育成も行っております。両方の意識を高めていって、より多くの学校に対応していきたいと考えております。

また、学校の先生方、学校行事は年間を通じて早めに予定を組まれているので、それを動かすという時に、美術館美術教育に関心のある先生が たまたまそこにおられれば動きやすいのですが、反面、今は美術専任の先生が学校によっては配置されていない場合もあったり、そういう難しさもあるのかなと思います。

(委員) 私の娘が小学2年生位の時、担任の先生が美術を専攻する方で、その先生の美術の授業がすごく有意義だったのです。一連の授業の中で、和田地区の粘土層から掘り出した土でものづくりをしました。そうすると、子ども達からは本当に色々な意見が出て、すごく生き生きとしてくるんですよ。絵が得意とか、美術が得意とかそういう垣根をこえて、もう色々な風に子ども達の成長を見ることが出来ました。

また、南部中学校には電気窯が入っているのですが、私の子ども達が中学生の時には「もったいないから」というので、なかなか使えなかったのですが、美術の先生が来られてからは、陶芸も授業に取り入れておられました。こういう風に精通している先生がいないと、美術とか、音楽とか、家庭科とかもそうなのかもしれませんが、どんどん衰退というか、決められたことだけの授業みたいになってしまいます。

(会長) 今、美術専門の先生が減っているということが、一番の問題でしょうね。美術館と学校が上手く連携すると、そういう問題も少し解決に向かうのかもしれない。

(委員) ありがとうございます。美術の鑑賞にしましても、私の申し上げたいことは、これから将来にわたって、この佐倉にいるこのお子さん達が担っていただけのような、そういうものを根本に考えて、いい企画があったら、より進めていただければいいのかなと思った訳です。

(委員) 良いと思います。子供たちに無料券みたいのを配って、夏休みとか、何度でも入れるとか そういう券を子どもが小学校や中学校の時にいただいた記憶があります。

(会長) ところで、先程の半券の件で 今後の検討事項にさせていただきたいということでしたが、それらのことが半年とか1年経つと、私なんか何が検討事

項だったのか忘れてしまうのです。そこでお願いなのですが、いつも議事録を確認して作ってくださいますね。議事録はそんなに長くなくても良いのですが、そこに分かりやすく「検討事項」と記していただけませんか？

(美術館) 検討事項については、分かりやすく議事録の中に残していきたいと考えております。

(会長) 是非。項目を分けて分かりやすくお願いします。それから、美術館の事業予算の公表していただけないのでしょうか？つまり美術館の事業に幾らかかって、幾ら収益があったという、言ってみればプライマリーバランスが分かると、結局は個別の議論をこえて、それはもう収益があろうと無かろうとやるべきだとか、これは収益無さ過ぎるというような、具体的な判断が出てくると思うのです。

## ※検討事項 2

(美術館) まずは、昨年度の事業について数字を含め、お答えいたします。

・「浅井忠」展＝入場者 6,798 人、  
観覧料収入 4,287,320 円 (内、有料入場者数が 5,468 人＝全体の約 80.4%)

・「安井曾太郎の世界」展＝入場者数 3,223 人、  
観覧料の収入 1,875,920 円 (内、有料入場者数が 2,425 人＝全体の 75.2%)

二つの企画展を振り返った時に有料のお客様に多くお越しいただいているのかなと考えております。また、先程ご指摘いただきました小中学校の児童に配るパスポートについて、「浅井忠」展では小中 34 校の全生徒、13,000 人に配った中で、パスポートを使った人数が 343 人ということで、使用率は 2.6%ほどでございました。また、「安井曾太郎の世界」展では、100 人の利用者があり、使用率は 0.7%でございました。

パスポートは、生徒とその保護者 1 名が無料になることから、間口を広げてお越しいただく機会になっていると思いますが、展示内容によっては少し厳しい場合もあるということが、こうした数字にも表れていると思います。

また、有料展につきましては、過去の 20 年を振り返りましたところ、今年の「浅井忠」展は、入場者数で 4 番目になります。

その上を順にご紹介しますと、

- 1 位「ルパン三世」展 (平成 24 年度) が 15,904 人 (44 日間)、
- 2 位「グレー村の画家たち」展 (平成 13 年度) が 12,783 人 (32 日間)、
- 3 位「エッシャー」展 (平成 20 年度) が、11,934 人 (47 日間)、でした。

実際これらを比べてみますと、3 位の「エッシャー」展と「浅井忠」展で 5,000 人ほどの差がございますが、「浅井忠」展という比較的地味な企画でこれだけのお客様に来ていただけたのは、一つにはこれまでに美術館が長く浅井忠を追求してきたこと、次に学校教育等においても、佐倉学というものを展開してき

て、その中で浅井忠などの佐倉ゆかりの人物を地道に取り上げてきた一つの成果なのかなという風に考えているところです。

(会長) 最初からこの美術館は有料入館者数の比率が高いのですね。ざっくり言って 26 年度はどの位の予算がかかったのですか

(美術館) 企画展については 3 千万円弱でございます。

(会長) 事業費が約 3 千万円、それに対する収入は観覧料だけで約 6 百万円だったのですね。

(美術館) その数値につきましては、少しでも改善しなければならないと考えております。尚、観覧料の他にミュージアムグッズや図録の販売がございます。昨年度について言えば、「浅井忠」展の図録を再版して、結局 1,500 部ほど、売れておりますので、少し貢献できたかなと考えております。

(会長) この数字について、どう思われますか？

(副会長) 観覧料収入が全体予算の半分以下位が普通ではないかと。むしろ、事業費 3 千万円で収入 6 百万円というのは、それほど悪い数字では無いと思います。

ただ、組合せの仕方として自主事業だけではなく、以前あった新聞社主催のオランダ展とか、そういう海外展の共催展をなさったら如何でしょうか。ここ数年、佐倉の美術館は海外展とかあまりしていないかなという気がしています。

玄人筋の人が観ると「佐倉の美術館は凄い」と。とにかく浅井忠や安井曾太郎をここまで丁寧にやっている美術館というのはなかなか無いという評価はあると思います。一方で、一般人向けにルパンや、あるいはゴッホなどの海外展をすると、入場者が 2 万、3 万とか、そういう展覧会も出てくる気がします。

ちょっと話がそれてしまいましたが、この 26 年度の主要事業については、これ自体は素晴らしいと思うのです。ただ、もう少し大所高所の大きなことも何年かがかりで考えて行かれると、佐倉の美術館はもっと成長すると思います。

(会長) この会議は運営協議会ですから、経営的な視点も必要ですね。

(副会長) アカデミックな面から見ると、ものすごく素晴らしい内容なんですが、マネージメントという面から見ると少し物足りないかなと。

(委員) 皆様のお話もごもつともだと思えますし、これからそのように進めていただければ良いかなと思います。もう一つの見方としまして、一番大切なのは、市民への還元ということではないかと。事業費 3 千万、収入 6 百万であれば、予算上であれば還元されているのかなと思っております。ですから、あまり企業のバランスシート的なものは少し控えるように考えていきたいなど、そんな風に思っております。

(会長) 仰る通りだと思います。お金さえ儲ければ良いというものではありませんからね。これから 27 年度の話に移っていくのですが、結局何を還元するの

か、そこが明瞭になれば、収入が少なくてもね。それではこの話は奥が深いので次へ進みましょう。

(3) 平成 27 年度事業について  
＜事務局より説明＞

(委員) 結局、良い展覧会をやっても発信力が足りないと、人に来てもらえないということです。具体的にどういう風に県外とか、市外に向けて広報活動はしているのでしょうか。

(美術館) この館の立地条件からしますと、京成電鉄を利用して上野、東京方面からいらっしゃるお客様が相当数おられますので、一つには京成電鉄の車内吊り広告です。それから『北総よみうり』等のミニコミ誌、その他に美術欄を載せる三大紙や東京新聞等ございますが、そのあたりは予算との関係で適宜選んでいるところです。

(委員) 全然美術とは違うと思うのですが、今、オタクと呼ばれている人、いわゆるサブカルチャー的な人たちの原動力ってすごいんですよ。美術館においても、茨城県近代美術館の「ウルトラマン」展（平成 23 年度）や「機動戦士ガンダム」展（平成 27 年度に森アーツセンターギャラリーで開催）だとか、いわゆる正規の美術とちょっとかけ離れたような企画とかをすると、全然今まで関係のなかったような方たちもたくさん来るんですね。この「高橋真琴の原画」展とかは、洋服が好きとか、可愛いもの好きとか、そういう今まで美術館に足を運ばなかったような方たちも観て楽しめるような展覧会になるのかなと思います。

(会長) 要するにパブリシティをどうするかということですよね。特にマスコミ向けのパブリシティですよね。例えば「高橋真琴の原画」展について、どのようにマスコミ対策をするかという戦略は考えていますか？

(美術館) インターネットの情報網を活用したいと考えております。元々、高橋真琴さんは年配の方に人気があるのですが、最近では自分でイラストを描いている若い方にもかなり注目されていると感じますので、そういう方たちにも届くようにインターネットの情報サイト等で広めていけたらと考えております。

(会長) いわゆるソーシャルネットワークサービスですね。それは是非ね、例の検討事項にして。すぐに「高橋真琴の原画」展でこうする、とかは大変なことなので。今後、マスコミ対策をどうしていくのか、是非 1 回学芸の方で会議をしてもらって、何か検討に値するような方向を出してもらって下さい。

※検討事項 3

(委員) 前年度と今年度の予定について、これだけ内容の濃いものを組み立ててあるので、問題は来場者ということですね。市でやる、美術館でやるから、集客が結果待ちということではなく、美術愛好家が沢山いる市内の方々へどうやって今以上に知らしめるかということです。近隣の方々に「佐倉市内の美術愛好家の方々は羨ましい」と言われるように、県内には佐倉と千葉にしか市の美術館を持っている市町村はないわけです。

ただ、広く周知するために今から新しいことにお金をかけることは難しいと思いますので、10月に市民文化祭、来年1月に新春展が開催されますね。その機会に少し言葉は悪いのですが、便乗する方向で、沢山人に知らしめる方法があるのではないかと思います。例えば、来年2月に予定している「魔法の美術館」というのは新春美術展の後ですよ。その葉書にある美術館の地図を少し小さくして、その空いたスペースに展覧会予告を入れたら、何千部と刷りますから、いやでも知れ渡ります。また、新春展にはポスターがあります。そのポスターの余白に予告を入れていただいても良いのかなと。

もう一つ、「高橋真琴の原画」展の前には市民文化祭が開催されます。こちら市民参加の大催事ですから、もう少し活用してもらった方がよいのではないかと思います。今年度は間に合わないとしても、今後のこととして考えましょう。

(美術館) 暖かいご提案をありがとうございました。これまで、見過ごしがちだったところにもう一度目を向け、関心のある美術愛好家の手元に情報が届くようによく考えてまいりたいと思います。

(委員) 先程、会長からお話がありましたが、こうやって美術館の企画展、活動等について説明なさるわけですから、活動の裏付けとなる予算のことね、やはりそれは私もちょっと知りたいと思います。ただし、他の市立美術館での協議会で、あまりにも細かく会計報告されると困ってしまう場合があります。その辺はご配慮いただいて、美術館の活動とそれを裏付ける予算の配分について細かなくても良いですから、それはやはりセットで知りたいと思います。そうすればまた、議論も違ってくるのではないかと

(委員) 去年の第2回の協議会でも数字出ませんでした？

(美術館) 本日お話しした位はお出ししています。ただ今、ご指摘がありました事業予算に関する数字については、次回以降にお願いしたいと思います。

(委員) 例えば第2回の協議会では、28年度の事業計画が出されると思われませんが、その時にいわゆる人件費までとか、細々したものは結構です。あと色々な先生方が広報普及について触れておられましたが、一番予算が削られてしまう部分ですね。はっきり言ってこの学芸員の4名、館長を入れて5名ですか、

この人数で広報普及について対応していくのは非常に大変だと思います。広報普及はきりが無いんですよ。ゴールデン時間帯に CM1 本打てば、企画展 1 本分の予算なんか、すぐに吹っ飛んでしまう。色々な手法についても、この次、予算を見せていただければもう少し話しやすいのかなと思います。

(副会長) 美術館はフェイスブックを持っていらっしゃるのでしょうか？

(美術館) 残念ながらございません。

(副会長) 是非持たれると良いですよ。今、日本の美術館はほとんどとは言いませんが、半分以上持っているのではありませんか？ポスターは貼る場所が無いし、SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) でやっていくのが、一番お金もかからない。

(美術館) まず、ホームページも更新を常に新しくということは今、追いかけながらやっていますので、出来るところから随時対応していければと。

(副会長) フェイスブックとか、ホームページの更新の細かいところまで美術館の人は出来ないと思います。だから、そういうのが好きなオタクの人にボランティアをお願いすると良いのではないのでしょうかね。

(会長) 人の増員を要求するべきですね。

(美術館) 出来れば、そうですね。しかし、なかなか。

(会長) 定員がつかなければ、市役所の担当課に頼むのは如何ですか？

(美術館) そうですね、佐倉市には情報システム課という課があります。今、現在もそこにアドバイスをもらっています。

(会長) 大分長くなりましたが、27年度の事業計画については、よろしいでしょうか？それでは、協議事項に移りたいと思います。

※「検討事項」として下記の3つが挙げられた。

- ①「佐倉市文化財施設の相互割引サービス」について、半券の割引有効期間を当日ではなく、もう少し延長出来ないか、検討すること。
- ②次回以降の運営協議会において、美術館の事業予算について公表し、収益との比較等、より具体的な協議が出来るよう、検討すること。
- ③「Face Book」などのソーシャルネットワークサービスの使用等、今後の展覧会のマスコミ対策について、改善案を検討すること。